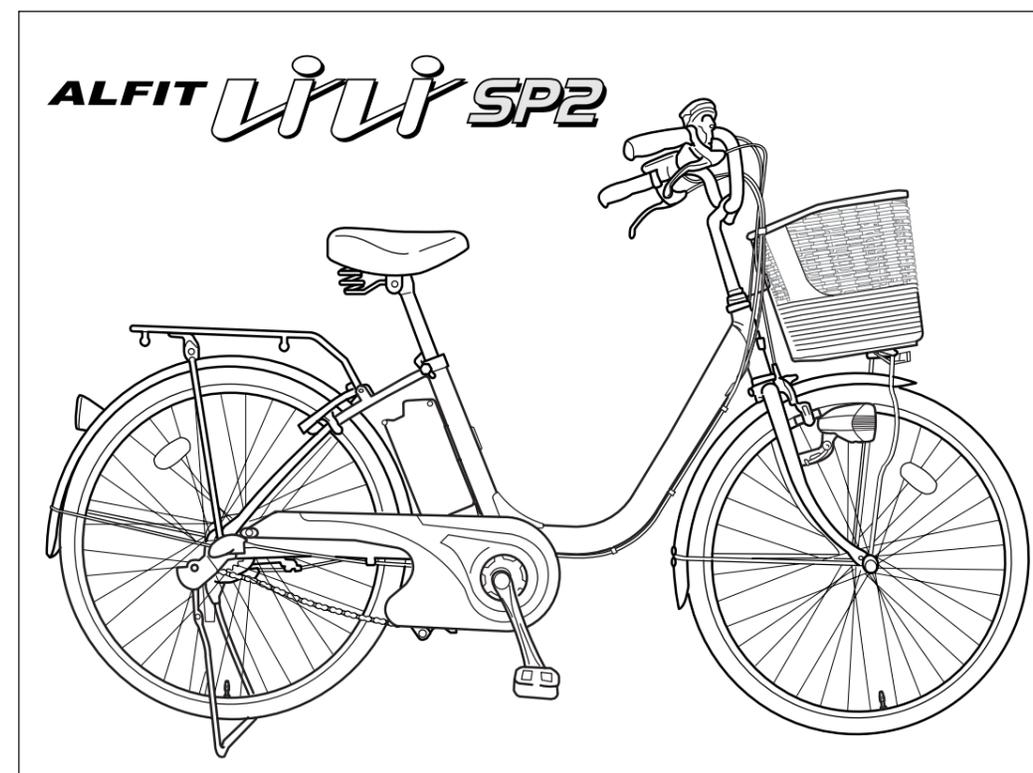
取扱説明書

電動ハイブリッド自転車

品　番　BE-EPSS43
BE-EPSS63

※イラストは、イメージ図を使用しています。形状やデザインが、お買い上げいただいた自転車と異なる場合があります。

このたびは、電動ハイブリッド自転車をお買い上げいただき、まことにありがとうございます。
取扱説明書と保証書をよくお読みのうえ、正しくお使いください。**特に「安全上のご注意」（4～8ページ）は、ご使用前に必ずお読みいただき、安全にお使いください。**
お読みになった後は、保証書と一緒に大切に保管し、必要なときにお読みください。
製品を他の人に譲渡される場合は、この取扱説明書を一緒にお渡しください。
お子様がお使いになる場合は、保護者の方がこの取扱説明書を必ずお読みいただき、正しい乗りかたをご指導ください。

お願い

この自転車は、散歩、買い物などの日常生活用として設計されています。
新聞配達など、業務用としてご使用にならないでください。

保証書別添付

- **保証書**は、**「お買い上げ日、販売店名」**などの、記入を必ず確かめ、販売店からお受け取りください。（記入がない場合は、無効となります。）
- 必ず、販売店に**防犯登録**をしてもらってください。（法律で義務付けられています。）

自転車のルールを守って、安全走行
●止まって確認、らくらく発進
●ライトをつけて、らくらく走行

ご相談窓口における個人情報のお取り扱い

パナソニック サイクルテック株式会社（およびその関係会社）は、お客様の個人情報やご相談内容を、ご相談への対応や修理、その確認などのために利用し、その記録を残すことがあります。また、個人情報を適切に管理し、修理業務等を委託する場合や正当な理由がある場合を除き、第三者に提供しません。お問い合わせは、ご相談された窓口にご連絡ください。

修理・取扱い・手入れなどは**まず、お買い上げの販売店へ**ご相談ください。

転居や贈答品でお困りの場合は、下記窓口にご相談ください。

最新のお客様ご相談窓口はホームページをご覧ください。

パナソニック サイクルテック株式会社

〒582-8501 大阪府柏原市片山町13番13号

NYT960　G0108-0

〈電動ハイブリッド自転車とは〉

お買い求めいただいた自転車は、電動補助システムが付いた自転車です。
電動ハイブリッド自転車は、普通の自転車と異なった部分があります。
この取扱説明書をよくお読みのうえ、正しく、安全、快適にお乗りください。

◆お買い求めいただいた電動ハイブリッド自転車の特長

① **免許証が不要です。**
電動ハイブリッド自転車は、運転免許証なしで乗ることができます。

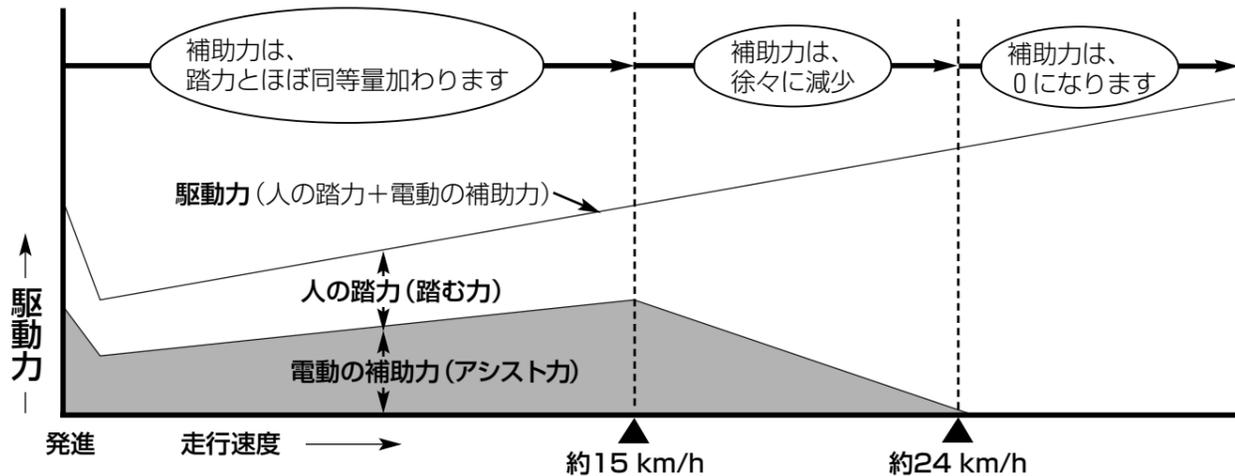
② **電動補助力の働きで楽に乗れます。**
上り坂や向い風、荷物を積んだ時などに電動補助力の働きで楽に走れます。
☆ 乗る人の踏力、道路の状況、積載荷物の重量等の条件により楽になる度合に差が生じます。

③ **バッテリーが切れても、普通の自転車として走行できます。**
乗りやすく、こぎやすい、人にやさしい設計がなされています。

④ **アシストモード切替機能が付いています。**
ペダルを踏む力や走行する道路の状況に応じて、モーターの補助力を選ぶことができます。

⑤ **リチウムイオン電池を使用しています。**
メモリー効果※の心配が無く、軽量です。また、安全性に優れたマンガンタイプを使用しています。
※メモリー効果とは、継ぎ足し充電を何度も繰り返すと、見かけ上バッテリー容量が低下すること。

●電動補助力（アシスト力）の働きと大きさの変化

ペダルを踏むと瞬時に、補助力が働き、自転車の約半分の踏力で走行できます。
電動補助力の大きさと補助速度範囲は、変速位置、走行速度により変化します。

手元スイッチのアシスト切替ボタンが「強」モードの時は、補助力が「標準」モードより強くなります。
※走行距離の目安は業界の基準で測定しています。詳しくは、21ページをご覧ください。

●次のようなときはアシスト力が働きません。

○時速が24km/h以上のとき。
変速段数によっては、24 km/h以下でアシスト力が働かない場合があります。
○ペダルを踏む力が弱いとき。
ペダルの回転を止めているとき、自転車が停止しているときもアシスト力は働きません。
○バッテリー残量がなくなったとき。
バッテリーの残量が少なくなると、残量表示ランプが点滅します。

もくじ

はじめに

充電のしかた

乗るまえに

乗りかた

乗ったあと

必要なとき

安全上のご注意(1) 必ずお守りください

お使いになる人や他の人への危害、財産への損害を未然に防止するため、必ずお守りいただくことを、次のように説明しています。

■表示内容を無視して誤った使い方をしたときに生じる危害や損害の程度を、次の表示で区分し、説明しています。

表示	内容
⚠危険	この表示の欄は、「死亡または重傷を負うことがありかつその切迫の度合いが高い危害の程度」です。
⚠警告	この表示の欄は、「死亡または重傷を負うことが想定される危害の程度」です。
⚠注意	この表示の欄は、「障害を負うことが想定されるか、または物的損害の発生が想定される危害・損害の程度」です。

■お守りいただく内容の種類を、次の絵表示で区分し、説明しています。(下記は絵表示の一例です。)

絵表示	内容
	この絵表示は、気をつけていただきたい「注意喚起」内容です。
	このような絵表示は、してはいけない「禁止」内容です。
	この絵表示は、必ず実行していただく「強制」内容です。

バッテリー(電池)

⚠危険

火中に投げ入れたり加熱しない

破裂によりけが、火災のおそれがあります。

分解や改造はしない

他の機器に使用しない

発熱、発火、感電のおそれがあります。

(+)と(−)を金属等で、接触させない

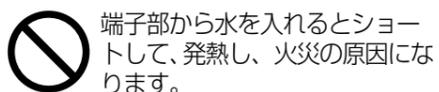
充電には、専用の充電器を使用する

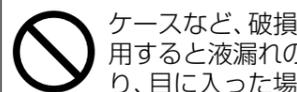
発熱、発火、感電のおそれがあります。

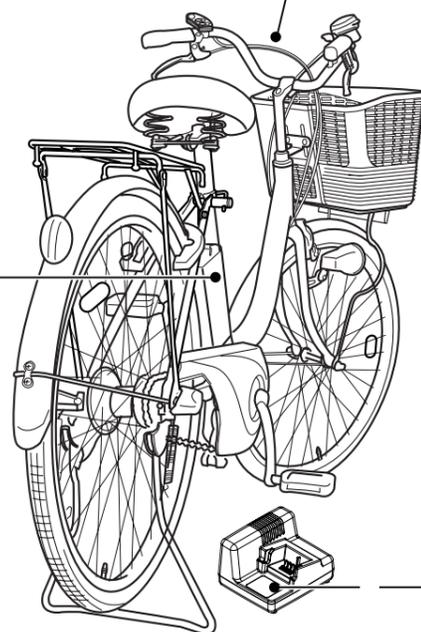
衝撃を与えたり、落下させない

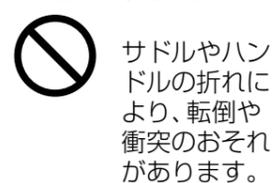
発熱、発火、破裂のおそれがあります。

⚠警告

水を入れたり、水中に投下しない

端子部から水を入れるとショートして、発熱し、火災の原因になります。

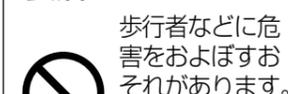
傷ついたまま使用しない

ケースなど、破損したまま使用すると液漏れのおそれがあり、目に入った場合失明するおそれがあります。

本体

⚠警告

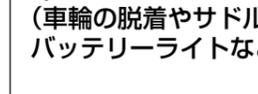
サドルやハンドルは「はめ合せ限界標識」が見える状態で乗らない

サドルやハンドルの折れにより、転倒や衝突のおそれがあります。

改造や分解、また指定以外の注油はしない

部品の破損や、ブレーキが効かなくなって転倒や衝突のおそれがあります。

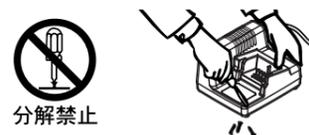
ハブステップなどの突出物を装着しない

歩行者などに危害をおよぼすおそれがあります。

ハブステップ

調整後の締め付けを確認せずに乗らない(車輪の脱着やサドル・バッテリーライトなど)

車輪などが外れて、転倒のおそれがあります。

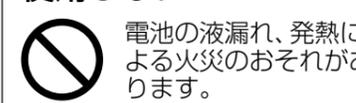
充電器

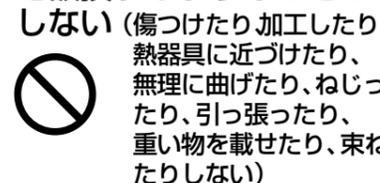
⚠警告

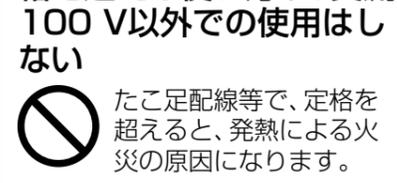
分解や改造はしない

発熱、発火、感電のおそれがあります。

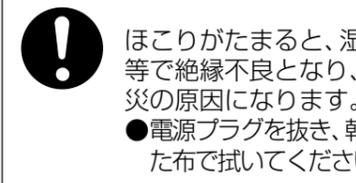
衝撃を与えたり、落下や水濡れをさせない

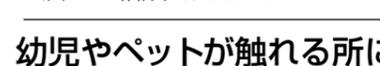
発熱、発火、感電のおそれがあります。

専用電池以外の充電には、使用しない

電池の液漏れ、発熱による火災のおそれがあります。

電源コードや電源プラグを破損するようなことはしない(傷つけたり加工したり、熱器具に近づけたり、無理に曲げたり、ねじったり、引っ張ったり、重い物を載せたり、束ねたりしない)

傷んだまま使用すると、感電・ショート・発火の原因になります。
●コードやプラグの修理は、販売店にご相談ください。

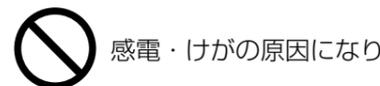
コンセントや配線器具の定格を超える使い方や、交流100 V以外での使用はしない

たこ足配線等で、定格を超えると、発熱による火災の原因になります。

充電端子や電源プラグのほこり等は定期的にとる

ほこりがたまると、湿気等で絶縁不良となり、火災の原因になります。
●電源プラグを抜き、乾いた布で拭いてください。

ぬれた手で電源プラグの抜き差しはしない

感電のおそれがあります。

電源プラグは根元まで確実に差し込む

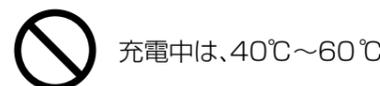
差し込みが不完全ですと、感電や発熱による火災の原因になります。

幼児やペットが触れる所に放置しない

感電・けがの原因になります。

充電中はカバーをしたり、上に物を置かない

内部が発熱し、火災のおそれがあります。

⚠注意

充電中は長時間、皮膚の同じ場所で触れない

充電中は、40℃~60℃になる場合があり、低温やけどのおそれがあります。

安全上のご注意(2)　必ずお守りください

けがをせずに、他の人にも迷惑をかけないために、乗り方や交通ルールを守りましょう。

交通事故を防ぐために

自動車や子供に注意！
安全を確認し、乗りましょう

車の横を走るときに！

開くドアや人の飛び出しに注意する

学校や公園が近くにあるときに！

子供の飛び出しに注意する

交差点を通るときに！

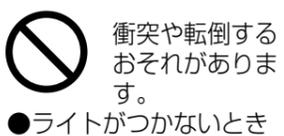
左折車に巻き込まれないように注意する

転倒事故を防ぐために

こんな時

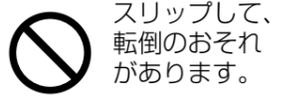
■雨・風・雪のひどいときは乗らない

バランスを崩し、転倒のおそれがあります。

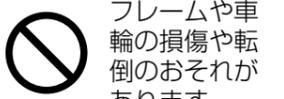
■夜間や視界の悪いときは、無灯火で乗らない

衝突や転倒するおそれがあります。

●ライトがつかないときは、押して歩いてください。無灯火での乗車は、法律違反になります。

こんな場所

■滑りやすいところでは乗らない
(積雪や凍結した道、鉄板やぬかるみなど)

スリップして、転倒のおそれがあります。

●降りて、押して歩いてください。

■凹凸の激しいところを走らない
(歩道の段差や、溝など)

フレームや車輪の損傷や転倒のおそれがあります。

●降りて、押して歩いてください。

こんな乗り方

■巻き込みやすい物を車輪やギヤに近接させて乗らない
(長いスカートやマフラー、傘やペットのひもなど)

車輪やギヤに巻き込まれ、転倒のおそれがあります。

■滑りやすい靴や、かかとの高い靴、厚底靴などをはいて乗らない

ペダルから足が外れ、転倒のおそれがあります。

■合図以外は、ハンドルから手を離さない

バランスがとりにくく、転倒のおそれがあります。

■手やハンドルに荷物をかけたり、ペットをつながない

荷物やひもが、車輪に巻き込まれたりバランスを崩し、転倒するおそれがあります。

■カーブで曲がる側のペダルを下げない

ペダルが地面と接触し、転倒するおそれがあります。

こんな使い方

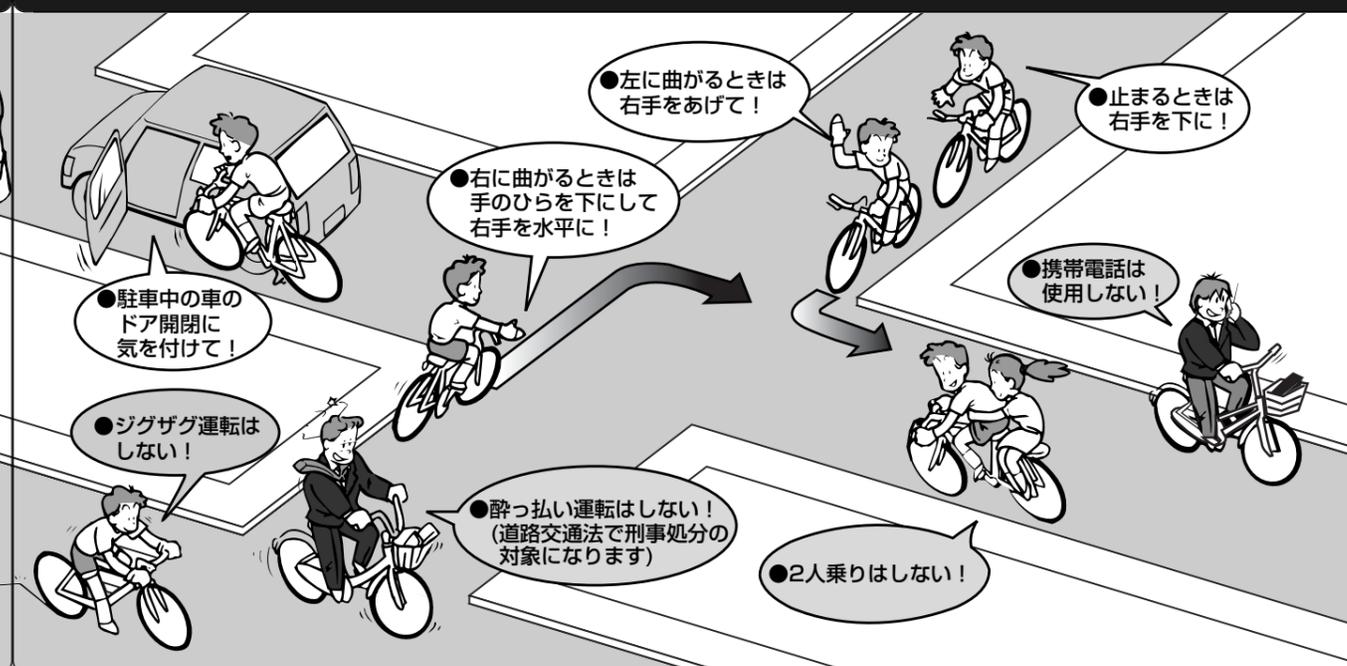
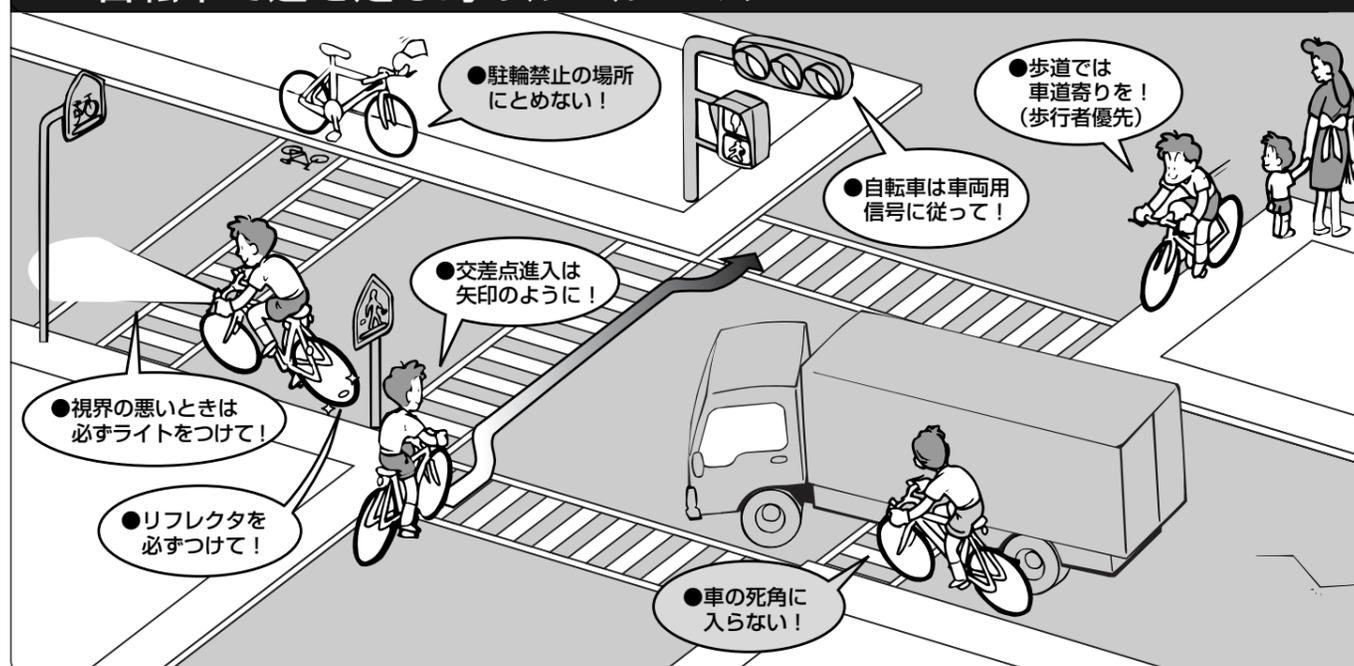
■走行以外に使わない
(踏み台代わりなど)

転倒するおそれがあります。

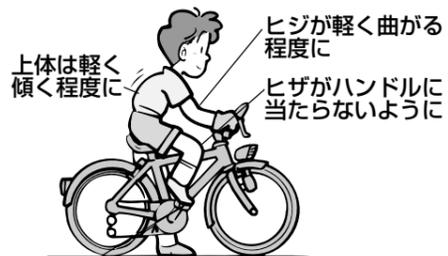
■スポークの間に固形物(ボールなど)を入れて走らない

車輪に巻き込まれて転倒のおそれがあります。

自転車で道を走る時のルール・マナー

安全上のご注意(3) 必ずお守りください

■乗るまえに

まず体に合わせてください

●図のように販売店で調整してもらってください。
●操作して確認してください。
①円滑なペダリングができる。
②ブレーキや変速機が確実に操作できる。
③ハンドル操作が容易にできる。

必ず点検をしてください

●必ず、取扱説明書をよく読んで点検してください。
●わからないときは販売店に相談してください。
●未組立及び未調整の自転車は使用しないでください。

正しい服装で乗ってください

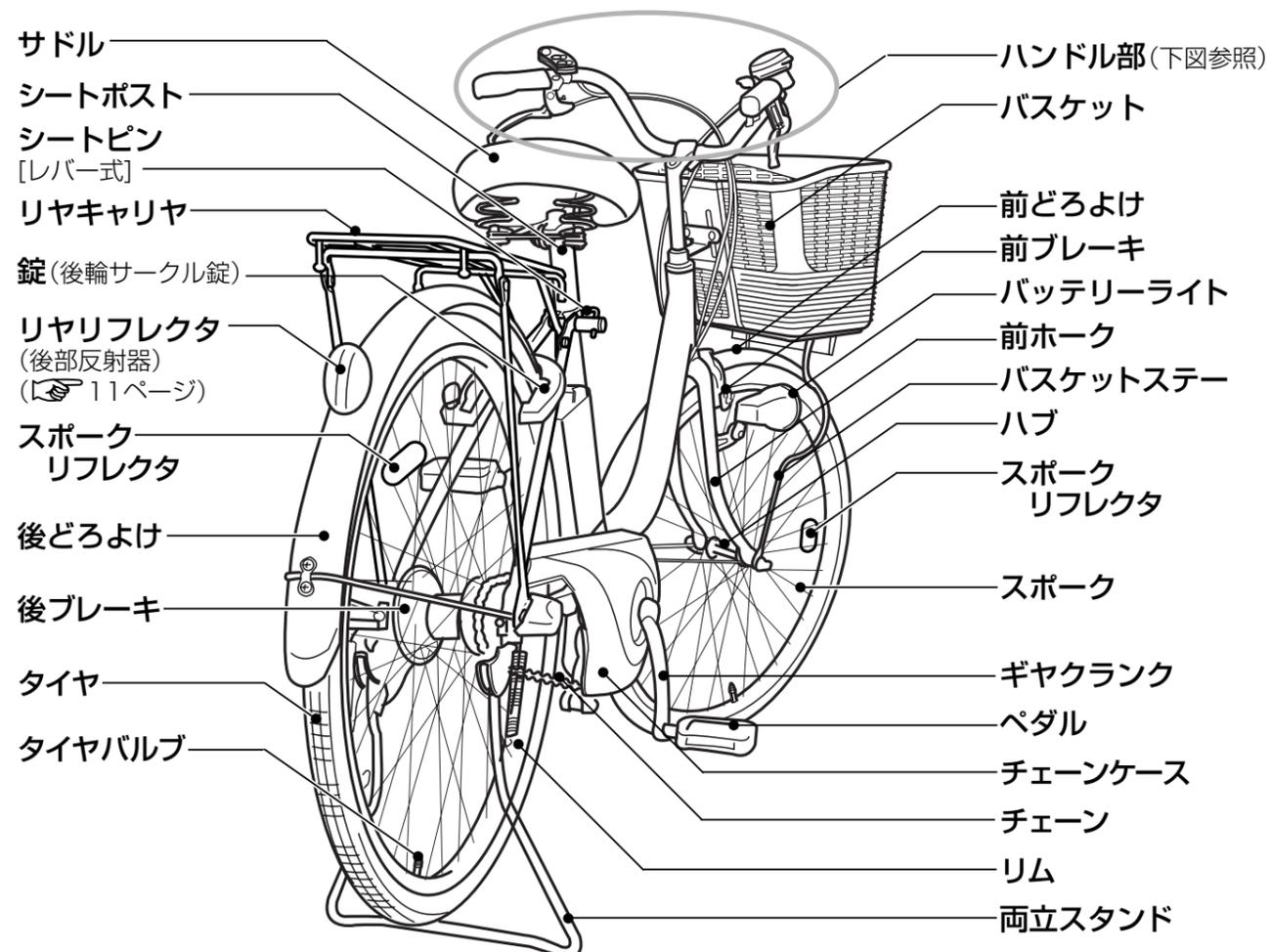
(車輪に巻き込まれやすい服装はしない)

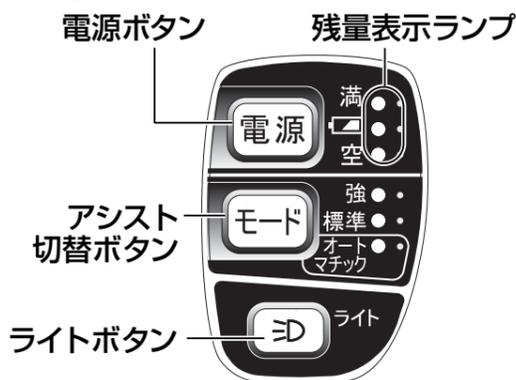
●チェーンやギヤがむきだしの自転車に乗るときは、必ずズボンのすそをズボンバンドで止めてください。
ズボンの汚れやチェーンへの巻き込み、ギヤへのひっかかり等を防止するため。

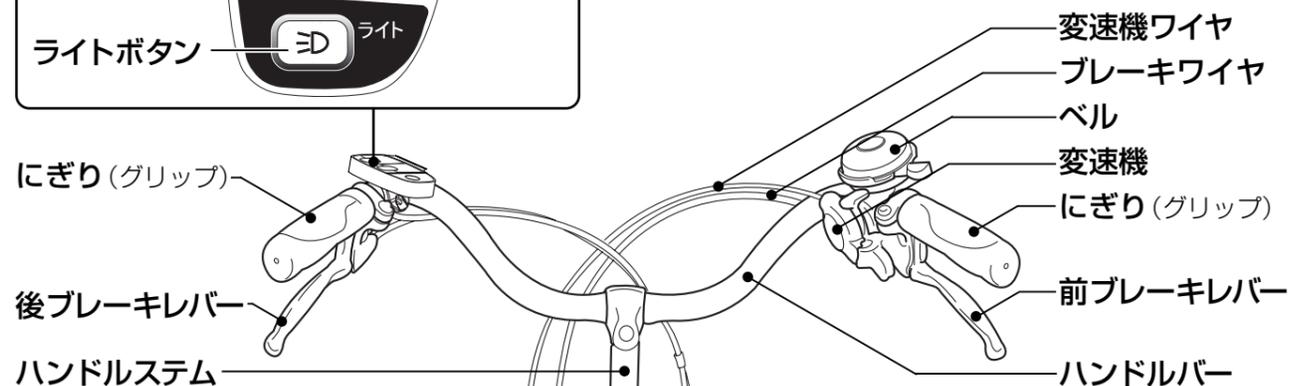
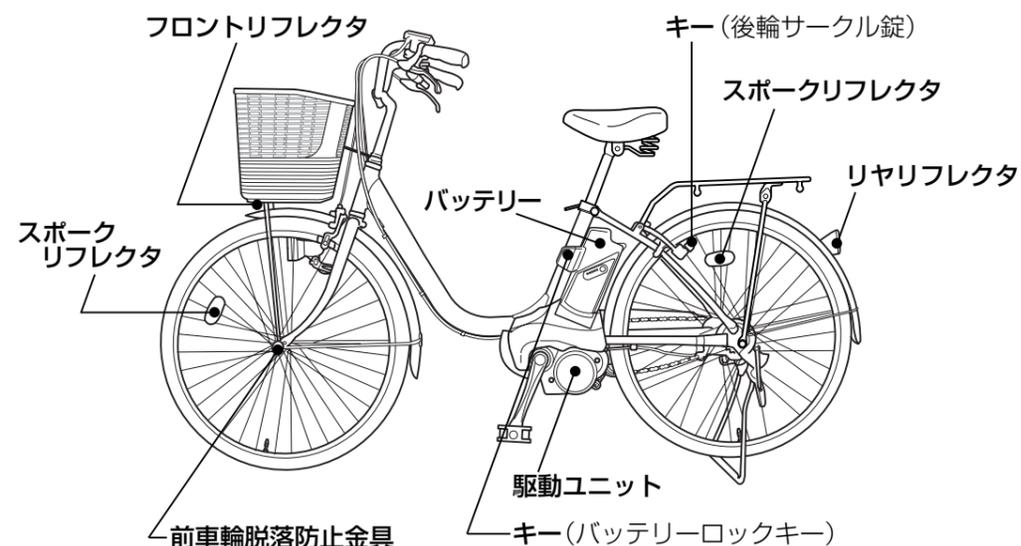
乗る練習は必ず行ってください

●練習を空地や公園など安全な場所で、行ってください。
よく練習してから一般道路でお乗りください。

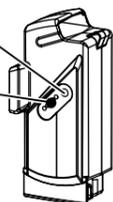
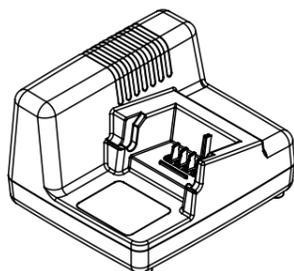
■乗ったあとは

●駐輪する時は、他の人に迷惑にならないよう、決められた場所にとめましょう。
●盗難防止のため、必ず鍵をかけましょう。
●自転車の放置は、他の人に迷惑をかけるばかりでなく、環境悪化の原因となります。絶対に止めましょう。

各部のなまえ(1)

■手元スイッチ

■付属品

自転車本体の他に下記のものが全て含まれていることをご確認ください。
●充電器
●取扱説明書/保証書
●乗りかたカード
●スペアキー(×2)

各部のなまえ（2）

■バッテリー

（☞20 ページ）

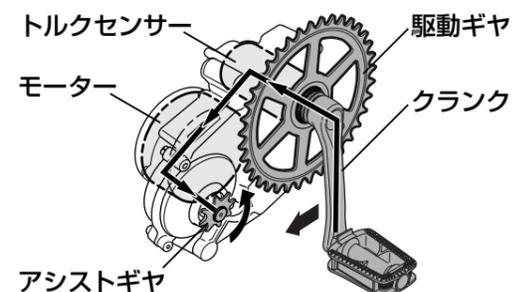
●充電のしかた
（☞12〜13・27 ページ）

■充電器

■キー（バッテリーロックキー/後輪サークル錠）

お願い

●キーの番号は、控えておいてください。
（保証書のキー番号欄とこの説明書の33 ページの記入欄に記入できます。）
キーを紛失されても、番号がわかればスペアキーをお求めいただけます。
販売店にご注文ください。

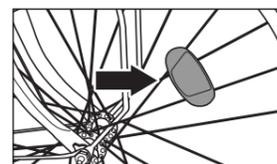
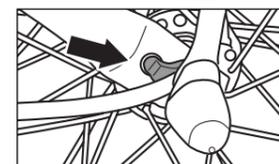
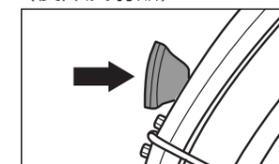
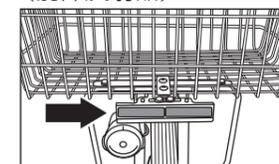
お知らせ

●後輪サークル錠のみ交換された場合は、キーが2種類になります。

■駆動ユニット

ペダルの踏力を、クランクを通じてトルクセンサーで感知し、最適なアシスト力をモーターからアシストギヤへ伝えることにより、快適なアシスト走行を実現しています。

警告

安全装置は取り外さない
外したまま使用すると、事故発生の原因になります。

■安全装置

スポークリフレクタ	前車輪脱落防止金具	リヤリフレクタ（後部反射器）	フロントリフレクタ（前部反射器）
横からの光を反射します	前車輪の脱落を防止します	後からの光を反射します	前からの光を反射します

※リフレクタ及び反射マークが破損した場合は、直ちに新品と交換してください。

■基準適合TSマーク（保険なし）

このマークは、道路交通法の規定に適合し、国家公安委員会の型式認定を取得した製品にのみ表示されるもので、安心して自転車としてご利用頂ける証明です。
（工場出荷時に貼付しているTSマークには、保険は付帯されていません。保険付きについては31 ページ参照。）

■品番マーク

このマークは法律上、自転車として認定されたものです。
取り外さないでください。

品番	XX-XXXXXXX
型式	XXXXXX
駆動補助機付自転車型式認定番号	XXXX-XX
普通自転車型式認定番号	XXXX-XX

（品番マーク）

■車体番号（刻印位置）

防犯登録に必要で、9文字（数字と英字）で表示しています。

●この自転車は（社）自転車協会が定めた自転車安全基準に基づく型式検査に合格した適合車です。

自転車安全基準

「自転車安全基準」は、（社）自転車協会がJIS（日本工業規格）をベースにDIN（ドイツ規格）など海外の規格や粗悪自転車による自転車事故事例等を踏まえて、消費者の安全第一を考えて定めた基準です。

■BAAマーク

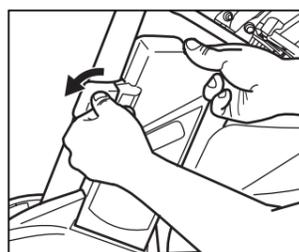
「BAAマーク」は、自転車安全基準に合格した自転車に貼ることができるマークです。
「BAAマーク」は、自転車の立パイプに貼付されています。
※BAA=自転車協会認証—BICYCLE ASSOCIATION (JAPAN) APPROVED

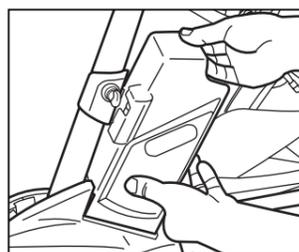
充電しましょう

バッテリーは酷暑、酷寒、衝撃を避けるのが上手な使い方です。

1. 手元スイッチの電源を切る

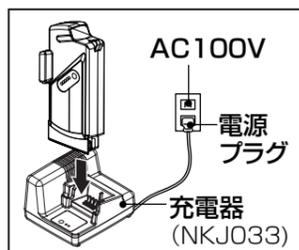
手元スイッチの電源ボタンを押して電源を切る。
（全ランプ消灯）
※電源を切らないとトラブルの原因になります。

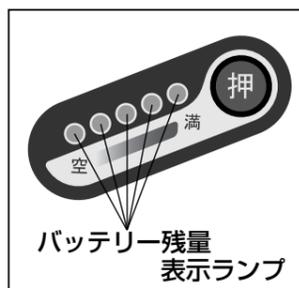
2. バッテリーロックを外し、バッテリーを引き上げる

バッテリーを支え、バッテリーロックキーを反時計方向に90度回す。（開錠状態のままキーを固定できます。）
バッテリーをゆっくり手前に倒す。

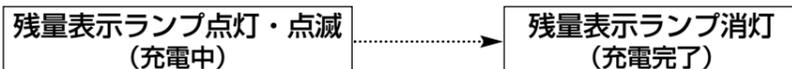
開錠状態のまま固定が可能（この状態ではキーは抜けません）

両手で支えながら引き上げて外す。バッテリーロックキーを時計方向に90度戻しキーを外す。

お願い
- ●バッテリーを取り外した後、バッテリーロックキーを外し、保管してください。

⚠注意
■バッテリーを支えてから バッテリーロックキーをまわす
落下し、けがをするおそれがあります。

3. バッテリーを充電器にセットする

電源プラグをコンセント（AC100 V）に差込み、バッテリーを充電器に奥まで押し込む。

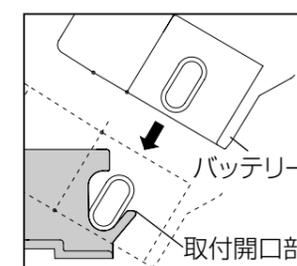
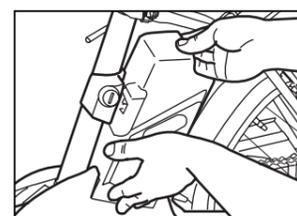
4. 残量表示ランプを確認する

バッテリーの残量表示ランプの点灯（赤色）を確認する。
（充電状態に応じた表示になります。）

残量表示ランプ点灯・点滅（充電中） → **残量表示ランプ消灯（充電完了）**

● **充電時間の目安**（気温20 ℃）
100 %充電まで……約2 時間
（充電時間は、アシストがなくなるまでバッテリーを使用したときの目安です。）

5. バッテリーを充電器から外す

残量表示ランプが消灯（充電完了）していることを確認し、充電器を押さえながらバッテリーを外した後、コンセント（AC100 V）から電源プラグを抜く。
※充電器の待機消費電力は約1.5 Wです。

6. 自転車の取付開口部に乗せる

取付開口部にバッテリーを乗せる。
（残量表示ランプのある面を手前にする。）

7. バッテリーを起こす

バッテリーを「カチッ」と音がするまで、垂直に起こす。
（バッテリーのカドを支点にして、弧をえがくように起こす。）

お願い
- ●装着後、バッテリーを手前に引いてみて、確実に装着されたことを確認してください。

⚠注意
■バッテリーが確実に 装着されたことを確認する
落下し、けがをするおそれがあります。

お願い 充電するときのポイント。

- ●初めて乗る時や1ヵ月以上乗られていない場合は、必ず充電してください。（出荷時は、満充電していません。）
- ●充電時の周囲気温は、10℃～30℃の場所で充電してください。
- ●充電器には、水やほこりがたまらないよう、ご注意ください。
- ●充電器は、必ず、外装箱から出して、ご使用ください。
（充電中の熱により、ケース等が変形するおそれがあります。）
- ●使用しなくても、3ヵ月に一度は充電してください。（27ページ参照）
- ●テレビ・ラジオなどのそばで充電をすると、雑音が入ったり、テレビの画面がちらついたりする場合があります。
その場合は、電化製品から離して（コンセントを変えるなど）充電を行ってください。

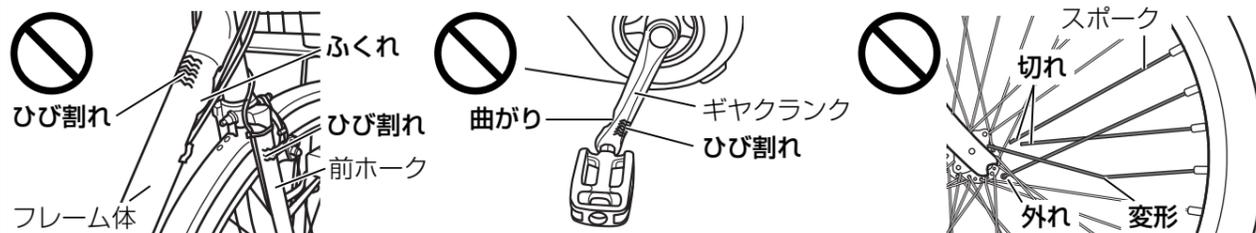
お知らせ

- ●バッテリー保護の為に、満充電からの再充電はできません。
- ●バッテリー温度が低い場合は、充電時間が長くなります。
- ●リチウムイオン電池は、メモリ効果がありませんので、リフレッシュ充電は不要です。
- ●長くお使いいただく為に上記内容をお守りください。（27ページ参照）

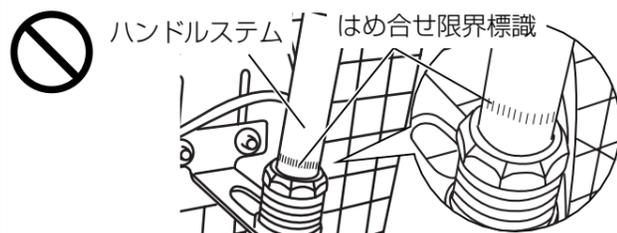
日常、必ず実施する習慣をつけましょう。

安全にご乗車いただくため、乗るまえにつぎの点検、調整と走行テストを実施する習慣をつけましょう。

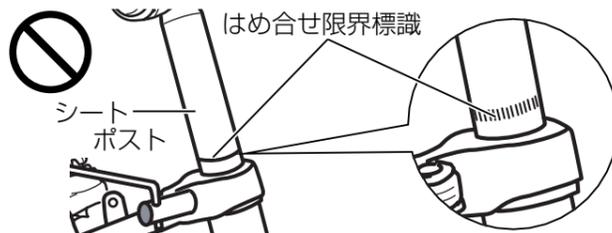
⚠警告

■ひび割れや変形したままで走行しない

折れて転倒し、けがのおそれがあります。

- ●ひび割れや変形を見つけたら、すぐに乗るのを止めて、販売店で点検、交換をしてください。
- ●前ホークは衝突などの強い力を受けたとき、変形することによって乗員や車体への衝撃を和らげるように設計してあります。衝突や転倒など強い衝撃が加わった後は、前ホークに変形やひび割れなどの異常がないか点検してください。
- ●スポークが1本でも切れたまま使用を続けると、他のスポークに負担がかかり寿命が短くなります。切れたスポークは直ちに交換してください。できれば、すべてのスポークを交換されることをお勧めします。

■ハンドルステムのはめ合せ限界標識が、見えるまで上げない

ハンドルステムが折れて転倒し、けがのおそれがあります。

●ハンドルの高さ調整は、販売店にご相談ください。

■シートポストのはめ合せ限界標識が、見えるまで上げない

シートポストが折れて転倒し、けがのおそれがあります。

■乗るまえの点検は、必ず実施する。

- ●前後ブレーキの効き、作動の点検をする。
- ●ハンドル・ハンドルステムが、確実に固定されているか点検する。
- ●前後車輪が、確実に固定されているか点検する。
- ●前後タイヤの空気圧が適正か点検する

事故や転倒のおそれがあります。

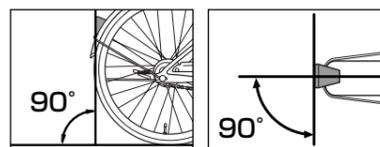
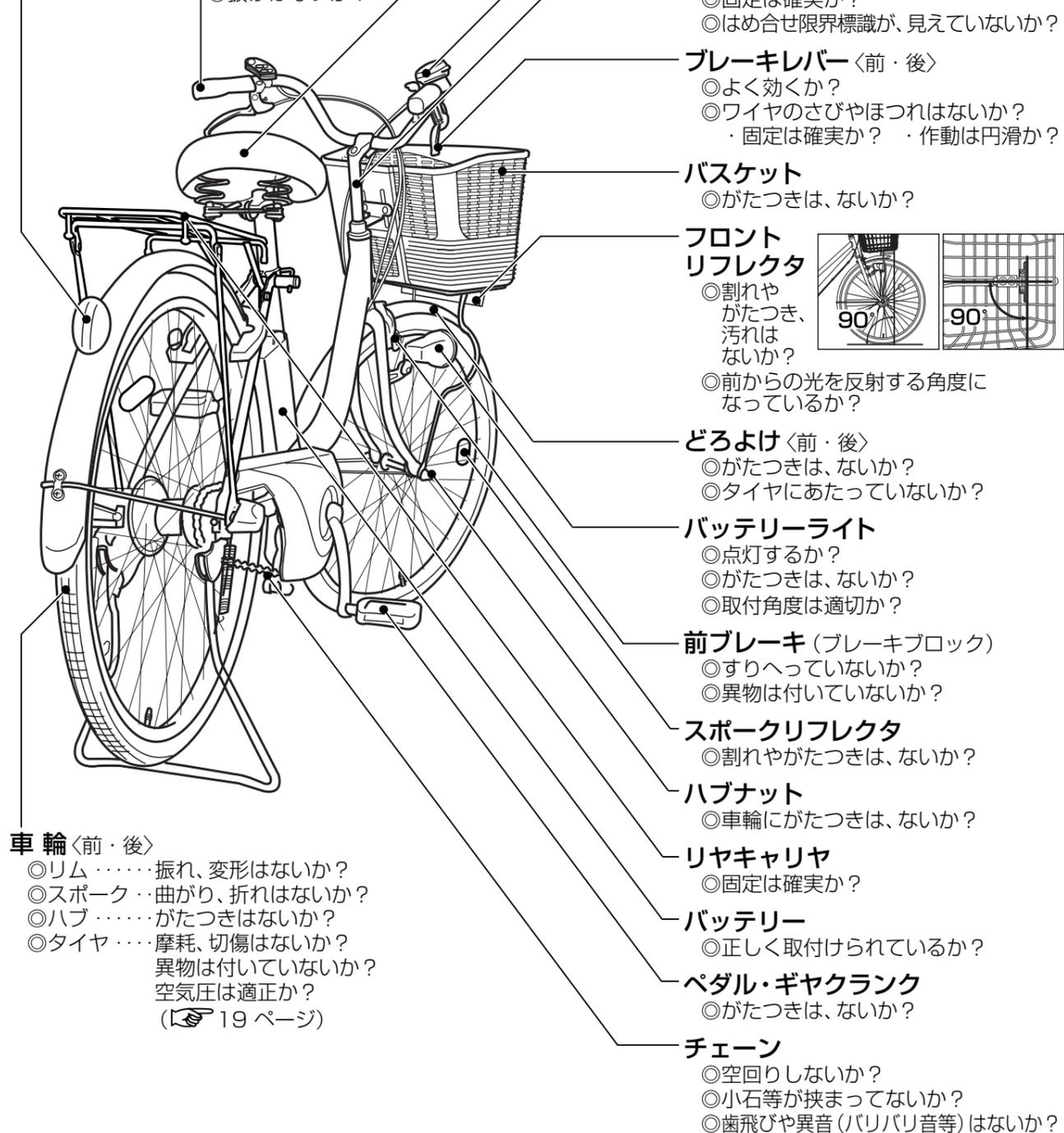
■点検で異常があったときは、乗車しない

事故や転倒のおそれがあります。

●異常があったときは販売店にご相談ください。

リヤリフレクタ
◎割れや、汚れはないか？
90°　90°

にぎり〈左・右〉
◎ひび割れはないか？
◎抜けはないか？

車輪〈前・後〉
◎リム ‥‥‥振れ、変形はないか？
◎スポーク ‥曲がり、折れはないか？
◎ハブ ‥‥‥がたつきはないか？
◎タイヤ ‥‥摩耗、切傷はないか？
異物は付いていないか？
空気圧は適正か？
（☞19 ページ）

サドル・シートポスト
◎サドルに座って、両足のかかとが、地面に着くか？
◎はめ合せ限界標識が、見えていないか？

ベル
◎よく鳴るか？

ハンドル・ハンドルステム
◎固定は確実か？
◎はめ合せ限界標識が、見えていないか？

ブレーキレバー〈前・後〉
◎よく効くか？
◎ワイヤのさびやほつれはないか？
・固定は確実か？　・作動は円滑か？

バスケット
◎がたつきは、ないか？

フロントリフレクタ
◎割れやがたつき、汚れはないか？
◎前からの光を反射する角度になっているか？
90°　90°

どろよけ〈前・後〉
◎がたつきは、ないか？
◎タイヤにあたっていないか？

バッテリーライト
◎点灯するか？
◎がたつきは、ないか？
◎取付角度は適切か？

前ブレーキ（ブレーキブロック）
◎すりへっていないか？
◎異物は付いていないか？

スポークリフレクタ
◎割れやがたつきは、ないか？

ハブナット
◎車輪にがたつきは、ないか？

リヤキャリヤ
◎固定は確実か？

バッテリー
◎正しく取付けられているか？

ペダル・ギヤクランク
◎がたつきは、ないか？

チェーン
◎空回りしないか？
◎小石等が挟まってないか？
◎歯飛びや異音（バリバリ音等）はないか？

わからないときは、販売店にご相談ください。

■ サドルの調整

●高さと向きの調整

①レバーをゆるめる。
②サドルの高さと向きを調整する。
③レバーを締める。
④がたつきやずれがないことを確認する。

●サドルの正しい方向と角度

フレームと平行に合わせる。　サドルの上面と地面を平行にする。

お願い

●角度の調整は販売店にご相談ください。

お知らせ

●サドル抜け防止機構のため、サドルを引き抜くことはできません。

⚠警告

■はめ合せ限界標識が見えるまで上げない

シートポストが折れたり、固定が不安定になり、転倒するおそれがあります。

■調整後はがたつきやずれがないか必ず点検をする

■ ブレーキの調整（ご購入店に依頼されることをお勧めします。）

●ブレーキレバーとグリップの間隔

ブレーキレバーとグリップの間隔は、開放時の1／2の位置で、ブレーキが効くように、調整する

●前ブレーキ

①ロックナットをゆるめる。
②調整ねじを回す。
③センタリング調整ねじで、リムと前ブレーキブロックのすき間が左右均等になるように調整する。
④走行してブレーキの効きを確認する。
⑤調整ねじがゆるまないよう、ロックナットを十分に締め付ける。

締付トルク（1〜2）N·m
{(10〜20) kgf·cm}

●後ブレーキ（ローラーブレーキ）

①ロックナットをゆるめる。
②クランクを押しながら、調整ねじを回す。
③ブレーキの効きを確認する。
④調整ねじがゆるまないよう、ロックナットを十分に締め付ける。

締付トルク（1〜2）N·m
{(10〜20) kgf·cm}

ブレーキをかけた時、音鳴りがしたり、ブレーキの効きが異常に強すぎる場合、ブレーキグリスの不足が考えられます。販売店でローラーブレーキ専用グリスを補給してください。

⚠警告

■ロックナットは確実に締め付ける

ブレーキの調整が狂い転倒や衝突の原因になります。

⚠注意

■走行直後は、ブレーキ部に手を触れない

ブレーキ部が高温になり、やけどの原因になります。

■ チェーンの調整（ご購入店に依頼してください。）

⚠警告

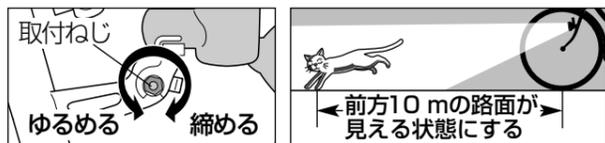
■ チェーンがたるんだまま走行しない

チェーンのたるみが大きくなると、走行時にチェーンが外れやすくなり危険です。
転倒や衝突の原因になります。

乗るまえに

■バッテリーライトの取扱い

●角度の調整

破損のおそれがありますので、取付ねじをゆるめて、調整してください。

使用工具
スパナ(10 mm)又はボックスレンチ(10 mm)

●点灯方法

①ライトボタンを押すとバッテリーライトが点灯します。
②再度ライトボタンを押すと消灯します。

※バッテリーライトは電源の入切に関係なく点灯・消灯することができます。
※アシストがなくなっても、バッテリーライトは、一定時間点灯し、ゆっくり点滅してから消灯します。
※停止して約10分以上経つと、自動的に消灯します。再度点灯させる時は、ライトボタンを入れ直してください。

●電球の交換方法

※電球の交換は販売店にご相談ください。

① ⊕ドライバーでねじをゆるめ、レンズを外す。

② 電球を交換する。

● 補助球(スペア球)は付いていません。

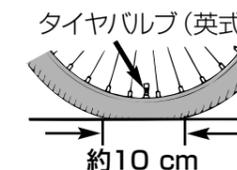
⚠警告

■ライトの取付がゆるんだまま、走行しない
前方を照らす角度がくるい、衝突や転倒のおそれがあります。
●乗る前に点検してください。

■夜間や視界の悪いときは無灯火で乗らない
衝突や転倒のおそれがあります。
●ライトがつかないときは、押して歩いてください。無灯火での乗車は、法律違反になります。

■空気圧の調整 (前後のタイヤ)

●適正な空気圧

自転車に乗った状態で接地部の長さが、約10 cm程度が、適正です。
圧力計のついたポンプでは、空気圧の測定が可能です。
300 kPa〜450 kPa {3.0 kgf/cm²〜4.5 kgf/cm²} が適正です。

タイヤバルブ(英式)
約10 cm

ご注意

●空気圧が少ないとパンクや、タイヤ、リムを損傷させる原因になります。
●長期間使用しない場合は、空気圧は自然に減ります。
●タイヤバルブの型式は、英式です。

お願い

● 上記の空気圧は体重65 kg程度の方が乗車された場合の適正な空気圧です。体重の重い方は通常より高い空気圧400 kPa〜450 kPa {4.0 kgf/cm²〜4.5 kgf/cm²} にて使用してください。

●空気の入れ方

自転車用のポンプを使って空気を入れます。

■ タイヤについて

⚠警告

■走行前にタイヤに異物が刺さっていないか点検する

パンクによる転倒の原因になります。

⚠注意

■タイヤの空気圧は300kPa {3.0kgf/cm²} 以下では使用しない

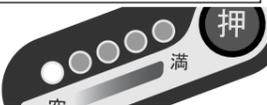
タイヤのひび割れ、偏摩耗やパンクの原因になります。

お願い

●ストーブなどの熱源の近くに置かないでください。
●ガソリン・有機溶剤・油類が付着したときは、すぐふき取ってください。
● 上記の空気圧は体重65 kg程度の方が乗車された場合の適正な空気圧です。体重の重い方は通常より高い空気圧400 kPa〜450 kPa {4.0 kgf/cm²〜4.5 kgf/cm²} にて使用してください。

バッテリーの残量と目的地までの距離をよく確認してください。

バッテリーの容量が、どの程度残っているか、又はどの程度充電されているかを知ることができます。
バッテリーの残量表示ボタンを押すと、残量表示ランプが、残量を表示します。
（あくまでも目安としてご使用ください。）

バッテリー部 残量表示ランプの表示状況	バッテリー残量 20 40 60 80 100%	手元スイッチ部 残量表示ランプの表示状況
LEDランプ 5つとも点灯	約100 %～80 %	LEDランプ 3つとも点灯 約100 %～70 %
LEDランプ 4つ点灯	約80 %～60 %	
LEDランプ 3つ点灯	約60 %～40 %	LEDランプ 2つ点灯 約70 %～40 %
LEDランプ 2つ点灯	約40 %～20 %	LEDランプ 1つ点灯 約40 %～10 %
LEDランプ 1つ点灯	約20 %～10 %	
LEDランプ 1つ点滅	約10 %～0 %	遅い点滅→早い点滅→消灯 約10 %～0 %

お知らせ

●バッテリーが新品のときや、長期間使用されていないとき、又は、厳寒の日や急な坂を登ったときは、まれに、残量表示ランプが点灯していても、補助力（アシスト）が働かないことがあります。
このような時は、再度充電してください。

■走行距離の目安

満充電後、バッテリーの残量が0になるまでの目安です。（当社の実験より）
走行距離の目安は、次の条件で測定しています。

- ●バッテリーは新品、気温は常温20 ℃、車載質量は乗員60 kg（荷物は無積載の状態）。
- ●バッテリーライトは未点灯、アシスト切替の選択状態は標準モード。
- ●実際の走行距離は、気象、道路、整備、乗り方等の条件により走行距離は変化します。
- ●特に強モードの場合、走行距離は条件により大きく左右されます。目安として標準モードの約70 %～80 %程度。
- ●オートマチックモードの場合、走行距離は条件により大きく左右されます。目安として標準モードの約130 %～140 %程度。
- ●各アシストモードについては、24ページをご覧ください。

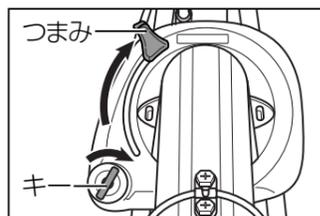
走りかた	走行距離（km） 10 20 30 40 50	走行条件
標準モード走行（業界統一テスト条件）	32 km	Aは、平坦1 km、 変速3 時速15 km/h Bは、2度坂1 km、変速2 時速10 km/h Cは、平坦1 km、 変速3 時速15 km/h Dは、2度坂1 km、変速3 時速20 km/h Eは、平坦1 km、 変速3 時速15 km/h
平坦路	43 km	時速15 km/h 、変速3
坂道（勾配2度）	10 km	時速10 km/h 、変速2
きつい坂道（勾配4度）	5 km	時速 7 km/h 、変速1

※ 上記「標準モード走行」は業界で統一のテスト条件です。

お知らせ

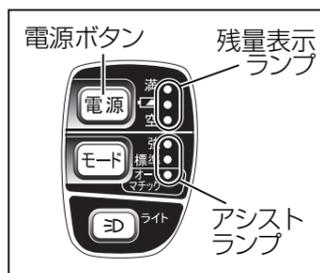
- ●冬期は、バッテリーの特性上、走行距離が短くなります。
- ●充電回数の増加と使用期間の経過に従い、1回の充電での走行距離がしだいに短くなります。
- ●走行距離は、道路状況や走り方により異なります。（積載質量が10 kg増えた場合、通常にくらべ約10 %走行距離が短くなります。）
- ●ペダルが重くなる使い方ほどバッテリーは早く消耗します。（走行距離をのばす為には、軽めの変速位置を選んでください。）
- ●充電回数が少なくても、長期間の使用により、走行距離が短くなります。
- ●24インチと26インチは、走行距離が同じです。

さあ、乗りましょう！（1）

1. 後輪サークル錠を開錠する

キーを差し込み、時計方向に回す。
（開錠時は、**キーが付いたまま**になります。）

ご注意

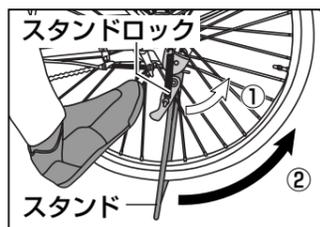
●後輪サークル錠のつまみは、勢い良く戻りますので指を挟まないようご注意ください。

2. 手元スイッチの電源を入れる

ペダルを踏まずに、手元スイッチにある電源ボタンを押す。

残量表示ランプとアシストランプが全点灯し、約2秒後にアシストランプが1灯点灯し、残量表示ランプが現在のバッテリー残量を表示します。残量表示ランプとアシストランプが交互に点滅する時はペダルに踏力を掛けないで電源を入れ直してください。（32 ページ参照。）

お知らせ

●停止して10分以上経つと、自動的に電源が切れます。（オートオフシステム）（再度走行する時は、電源を入れ直してください。）

3. スタンドを上げてサドルにまたがる

スタンドロックを解除し、
スタンドを後方へ完全にはね上げる。

4. 発進する

前後左右の安全を確認し、ペダルを踏んで発進する。
（電動補助システムが働き、作動音がします。）

⚠警告

■けんけん乗り（けり乗り）しない

転倒や接触事故のおそれがあります。
●必ずサドルにまたがって、発進してください。

※けんけん乗り（けり乗り）とは、
片足でペダルをこぎながら助走し、反動をつけてサドルにまたがる乗り方です。

お願い

●電源ボタンを押した時に手元スイッチの残量表示ランプが点灯しない場合は、バッテリーの充電や固定が確実にできているかを確認してください。
●慣れるまでは、踏み始め及び坂道を上がり終えた直後のアシスト力に注意してください。
●走行途中では電源を入れないでください。
●停車中は、両足を地面に着けるか、又は、ブレーキをかけた状態にしてください。
●走行中に通常と異なった音がした場合は、販売店へ相談してください。

お知らせ

●走行中は、ラジオ等に雑音が入る場合があります。

■荷物を積むとき

⚠警告

■積載条件から外れる荷物を積まない

〈バスケット積載条件〉
●大きさ：バスケットにおさまる大きさ　●重　さ：3 kgまで
〈リヤキャリヤ積載条件〉
●高　さ　：30 cmまで　●幅・長さ：キャリヤの幅・長さプラス10 cmまで
●重　さ　：フロントバスケット・リヤキャリヤ合わせて22 kgまで（クラス表示25）
（但し、フロントバスケットは3 kgまで。）
バランスを崩し、転倒するおそれがあります。

お願い

●荷物の運搬には、リヤキャリヤ及びバスケット以外は使用しないでください。

お知らせ

●容量の大きいバスケットに交換しても、最大積載質量は同じです。

■幼児用座席のご使用について

⚠警告

■幼児用座席なしで幼児を乗せない
■幼児用座席に幼児を乗せている時は、その場を離れない

不安定で、自転車が転倒し、幼児が落下するおそれがあります。

■幼児の乗せ降ろしの際は、ハンドルをまっすぐにした状態で平坦な場所に駐輪し、必ずスタンドロックをして行う

■取付時に、ハンドルバーへキズをつけるおそれのある幼児用座席は装着しない

ハンドルバーがキズつき、損傷する可能性があります。

■幼児用座席に幼児を座らせている場合、可動部に触れさせない

車輪やギアに手足を巻き込まれ、けがをするおそれがあります。

■リヤキャリヤ取付式幼児用座席を取付ける時はドレスガードも取付ける

車輪やギアに手足を巻き込まれ、けがをするおそれがあります。

お知らせ

●この自転車は、ハンドル部、リヤキャリヤに市販の幼児用座席を取付けることができます。
●乗せることができるのは、体重15 kg以下で、身長100 cm以下の幼児、一人だけです。

お願い

●幼児を自転車に乗せる際は、必ず幼児用座席を使用してください。
●ハンドルバーはキズがつくと強度が低下し、損傷する可能性があります。特にアルミハンドルバーはその傾向がありますので、取付部に保護パッキン等の無い幼児用座席は、絶対に装着しないでください。
●リヤキャリヤ取付式幼児用座席は、必ずクラス25表示のリヤキャリヤに装着してください。
●幼児用座席が、自転車に確実に取付けられていることを確認してください。
●幼児を乗せる時は、必ず靴をはかせてください。
●幼児はセフティーベルトで固定し、落ちないように注意してください。
●幼児を自転車に乗せる際は,必ず幼児用座席を使用し、ヘルメットを着用させてください。
●詳しくは、販売店にお確かめください。

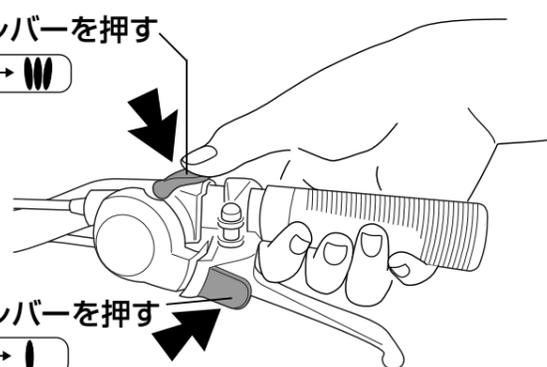
■変速のしかた

警告

■スピードをだしすぎない

標準常用速度 12 km/h ～15 km/h
衝突や転倒による事故の原因になります。

■一度に2段以上変速しない

一気に変速すると、ショックが大きく、転倒するおそれがあります。
●1段ずつ変速してください。

インジケーター位置	ペダルの回転が 軽くなる	重くなる
1	↑	↓
2		
3		

お願い

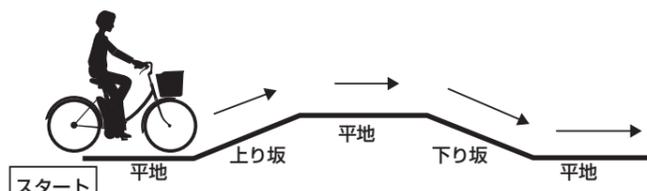
● 変速操作は、よく練習してください。
● 変速時は、ペダルを止めるかペダルの踏力を少なくして変速してください。
（スムーズに変速できます。）

■ アシストモードの切り替えかた（手元スイッチ）

アシスト「強」モード・「標準」モード・「オートマチック」モードの切り替えは、電源が入っていれば、アシスト切替ボタンを押すだけで切り替え（矢印順）ができます。

アシストランプ		
	「強」	標準モードより楽に走行できますが走行距離は短くなります。
	「標準」	通常はこのモードで走行します。
	「オートマチック」	走行条件によりアシスト力を自動的に変化させ、走行距離を伸ばします。

アシスト切替ボタン

●アシスト力の変化

モード設定／走行条件	走行条件とアシスト力 スタート	平地	上り坂	急な上り坂	下り坂
『強』	強	強	強	強	オフ
『標準』	中	中	中	強	オフ
『オートマチック』	中	弱	中	強	オフ

お知らせ

●電源を入れた時は、前回電源をOFFした時のモードで起動します。坂道や重い荷物を載せて走行する時は、アシスト切替ボタンを押し、「強」モードにしてください。
●電動ハイブリッド自転車になれるまでは「標準」、「オートマチック」モードで走行してください。
●下り坂等でペダルが軽くなると、すべてのモードで自動的にモーターが止まり無駄な電力消費を抑えます。

■変速機の上手な使いかた

	推奨変速位置	推奨アシストモード
平地を走るとき…	●シフトレバーを 2（または 3）の位置にあわせる 発進するときは、1 にあわせると楽です。	「標準」モード 発進するときは、「強」モードが楽です。
上り坂のとき…	坂の手前で… ●シフトレバーを 2（または 1）の位置にあわせる きつい上り坂のときは、1 にあわせると楽です。	「強」モードにする
下り坂のとき…	坂の手前で… ●シフトレバーを 3 の位置にあわせる	「オートマチック」モード

楽な走行をするには…

●タイヤの空気圧はいつも適切にしてください。（19 ページ参照）
●軽めの変速位置を選んでください。（特に発進と上り坂。）
●変速機やアシストモードは、坂や風の状態、体調等によって、最適の位置を選んでください。

■ブレーキのかけかた

①後ブレーキを先にかけてから
②前ブレーキをかける。

お願い

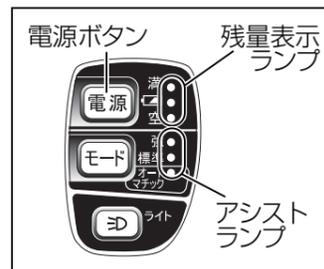
●急な坂道のときは、降りて押してください。
●下り坂のときは、適時ブレーキをかけながら速度がですぎないように走行してください。

警告

■雨天時や下り坂ではスピードを出さない

ブレーキが効きにくく、スリップしやすいため、衝突や転倒するおそれがあります。

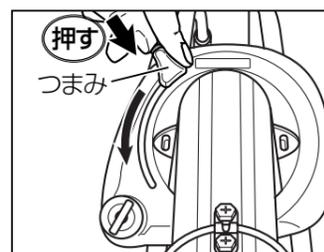
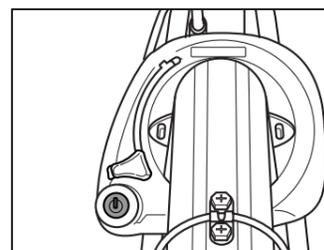
●下り坂の手前では、ブレーキテストを行ってください。
●急ブレーキをかけなくてもよいように、いつも前方に注意してください。

1. 手元スイッチの電源を切る

手元スイッチにある電源ボタンを押して、電源を切る。

残量表示ランプとアシストランプが消灯する。

2. スタンドをたてる

スタンドを立て、スタンドロックをかける。

3. 後輪サークル錠を施錠する

後輪サークル錠のつまみを押し込みながら下へ止まるまで回し、施錠する。

キーを抜く。

お願い

●盗難防止のため、キーを付けたまま駐輪しないでください。
●駐輪場など、決められた場所に駐輪してください。

お知らせ

●開錠方法は、22 ページをご覧ください。

バッテリー

■バッテリーの種類は、リチウムイオン電池です。

特徴

●メモリー効果はありません。
●冬期は、容量が低下し、走行距離が短くなります。
●バッテリー温度が低い場合、充電時間は長くなります。
●ほとんどの部品が、リサイクル可能です。

品番

●仕様表でご確認ください。(34ページ参照。)

■バッテリーの交換

●お買い求めの販売店にご相談ください。

使用済みの充電式リチウムイオン電池は、貴重な資源を守るために、廃棄しないで販売店かリサイクル協力店へお持ちください。

■寿命の目安

バッテリー寿命は、約300〜400回の充・放電、
使用期間は、約1年半〜2年間です。
(走行状況や気温・充電のしかた、使用期間等で異なります)

お知らせ

●1回の充電で、走行できる距離が著しく短くなったときが、交換の時期です。(新品時の約60%以下)
●バッテリー寿命の目安と、製品の保証期間とは関係ありません。

■バッテリーの保管

●満充電してください。
●周囲気温が10 ℃〜30 ℃の場所で保存してください。
●最低3ヵ月に1回は充電してください。
●バッテリーの残量表示ボタンを押した時に、LEDランプがすべて点灯しない場合、保護回路が働いています。
バッテリーを充電器にセットすると解除されます。

乗ったあと

お手入れ／保管／廃棄

お手入れ

■日常のお手入れ

●乾いた布やブラシで、泥や土、ほこりを落としてください。
　洗車は、しないでください。
●がんこな汚れには、台所用洗剤（中性）を薄めてご使用ください。

■湿気の多い所や海岸沿いでのお手入れ

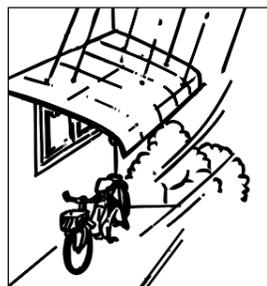
さびやすいので、お手入れの回数を、多くしてください。

お願い

●シンナー等の有機溶剤は、使用しないでください。（塗装がはげたり、樹脂製部品が浸食されます。）
●サドルには、ワックスをかけないでください。（座ったとき衣服が汚れたり、すべります。）
●長期間ご使用になるとバッテリーの取外しが固くなる場合があります。これは、車体側接続端子の表面に汚れや酸化物が付着し、バッテリー端子との滑りが悪くなるためです。バッテリーの取外しが固くなったときは、乾いた布で車体側接続端子の汚れや酸化物をふき取ってください。このとき、ショートするおそれがありますので、金属製の物は使用しないでください。

保管／廃棄

■保管場所

●安定のよいところ。
●風通しがよく、湿気の少ないところ。
●雨つゆや直射日光が当りにくいところ。

■タイヤの保管

空気を十分に入れてください。
（☞ 19 ページ）

■長期間保管する場合

●ごみやほこりがつくのを防ぐため、「サイクルカバー（別売オプション）」の使用をおすすめします。
（バッテリーの保存については27 ページをご覧ください。）

サイクルカバー（別売オプション）
※SAR135～136
前後裾絞り（強合成ゴム使用）
裾中央ナップ棒止め

■廃棄するとき

自転車を廃棄するときは、お住まいの地域のルールに従ってください。

注　油について

注　油

⚠警告

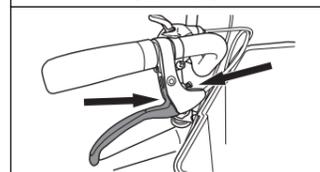
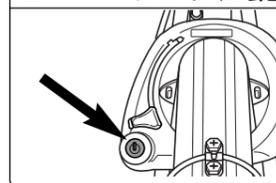
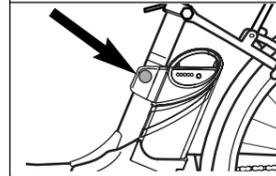
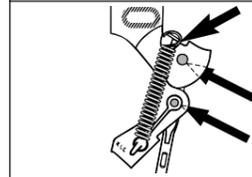
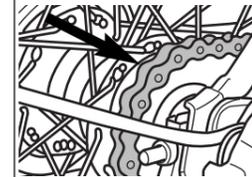
■リムやブレーキブロック（ゴム部）には、油をつけない

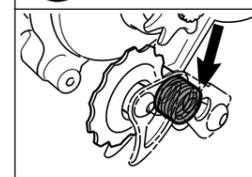
ブレーキが効かなくなり、衝突や転倒のおそれがあります。

このマークは、**注油場所**を示します。

このマークは、**注油禁止場所**を示します。

ご注意

●油の種類は、必ず、防錆潤滑剤を使用してください。
（食用油などは、硬化するおそれがあります。）
●余分な油は、乾いた布でふき取ってください。

可動部に注油。
スタンドロックの裏側の2本のカシメ部分。
バネ引っ掛け部の上端。

クランクを回しながら注油。
（サビやほこりがつくのを防ぎます。）

テンションプーリーのバネ部にグリスを塗布。

定期点検

点検と整備は、電動ハイブリッド自転車の大切な健康診断です。いつまでも安全にお乗りいただくために、ご使用後初めての初回(2ヵ月目)点検と、6ヵ月毎の定期点検の実施をお願いします。

●初回(2ヵ月目)の点検と整備

お買い求め2ヵ月位のご使用で、各部にねじのゆるみが出ることがあります。必ず、お買い求めの販売店又は修理代行店で、自転車安全整備士、自転車技士(自転車組立整備士)、もしくはそれと同等の技術を有する者により点検・整備をお受けください。

●2回目以降(6ヵ月毎)の点検と整備

安全にご愛用頂くため、必ず継続してお受けください。

⚠警告

■定期点検は、必ず実施する

異常や故障の発見がおくれ事故の原因になります。

■部品の交換は、次の基準で実施する

●ブレーキワイヤ・変速ワイヤは、異常がなくても2 年に1 回は、交換する。
●タイヤは、接地面(トレッド)の溝がなくなる前に交換する。
●ブレーキブロックは、溝の残りが、1 mm になる前に交換する。
●ブレーキブロックは、リムにあった純正ブレーキブロックに交換する。

ブレーキが効かなくなったり、スリップのため転倒のおそれがあります。

愛情点検　定期点検をし、安全走行をしましょう！

こんな症状はありませんか	●異常音がする ●がたつきやゆるみ ●車輪の振れ ●ブレーキの効きが悪い

▶ **お願い**
●点検・整備は、お買い上げの販売店で行ってください。

アフターサービス

■修理を依頼されるとき

●保証期間中は、	お買い求めの販売店が、保証書の規定に従って、修理させていただきます。 自転車に保証書を添えて、お買い求めの販売店までお持込みください。
●保証期間が過ぎた後は、	お買い求めの販売店にご相談ください。

盗難補償

盗難補償制度とは、電動ハイブリッド自転車をお買い求めいただいたお客様を対象に、ご購入日より3年以内に盗難にあわれた場合、盗難車の希望小売価格(税込)の30パーセントと組立手数料4,200円(税込)で、盗難車と同タイプの新車をお買い求めいただくことができる制度です。制度の詳細は下記の通りです。

ご購入時、保証書のお客様欄に必要事項をご記入され、盗難補償登録カードをご提出いただいたお客様に限り、次の内容により盗難補償がうけられます。

(1) 盗難補償の期間と範囲
お買い求めの日から3年間の自転車(別売部品等を含む装着部品の盗難は除く)かつ、盗難日より90日以内に申し込みいただいた場合に限ります。

(2) 盗難補償の内容
■お客様のご負担　①充電器を除く本体の希望小売価格(税込み)の30%
②組立手数料　4,200円(税込み)

(3) 盗難補償の申込み要領
■提出書類　①盗難にあった地区の警察署から交付を受けた証明になるもの
(警察受理ナンバー又は盗難届出証明書等)
②盗難車の保証書
③盗難車のキー(3本)
④盗難補償申込書(販売店が用意いたします。)
■申込み先　お買い求めの販売店へ現金を添えて、お申し込みください。
追って、販売店から新車を、お渡しいたします。

(4) 盗難車の所有権
盗難車が発見された場合は、その所有権は当社に帰属することを同意の上お申し込みください。

(5) 盗難補償ができない場合
①(3)の書類がそろわない場合　②防犯登録がされてない場合
③補償期間が過ぎている場合　④景品などの贈呈品の場合
⑤盗難補償車が再度、盗難にあった場合　⑥盗難補償登録カードが返送されていない場合
⑦盗難車が見つかり、返ってきた場合　⑧無施錠で盗難された場合

ご注意
●生産等の都合で、同タイプの自転車をお届けできない場合がありますことをご了承願います。

基準適合TSマーク(保険付き)

自転車安全整備店で点検整備を行い、基準に適合した安全な自転車にこのマークを貼ることができます。
(工場出荷時に貼付しているTSマークには、保険は付帯されていません。(11ページ参照。))
このマークには、傷害保険と賠償責任保険が付帯されており、万一の事故の際に利用することができます。
保険付きTSマークの添付をご希望される方は、お買い求めの販売店もしくは自転車安全整備店(TSマーク取扱店)にご相談ください。

お願い
●点検□年□月□日が記入されていない場合は、必ず、お買い求めの販売店に記入してもらってください。記入されていない場合は、補償されないときがあります。

故障かな？!

まず、次の表に従ってお調べいただき、直らないときは、お求めの販売店に修理をご依頼ください。

症状		対処方法	ページ
ペダルが重い	手元スイッチのアシストランプ、残量表示ランプが点灯しない	●バッテリーが確実に取り付けられていますか？ ⇨ バッテリーを確実に取り付けてください。	12〜13
		●バッテリーの残量表示ボタンを押した時に、2・4番目のLEDランプが点滅すれば、保護機能が働いています。 ⇨ バッテリーを充電してください。	――
		●バッテリーの残量表示ボタンを押した時に、LEDランプがすべて点灯しない場合、保護回路が働いています。 ⇨ バッテリーを充電してください。 ※充電しても表示が戻らない場合は、販売店にご相談ください。	――
	手元スイッチの残量表示ランプが早い点滅をしたり、点灯しない	●充電ができていますか？ ⇨ バッテリーを充電してください。	12〜13
	手元スイッチの残量表示ランプとアシストランプが交互に１回ずつ点滅する	●ペダルを踏みながら、電源ボタンを押しませんでしたか？ ⇨ ペダルを踏まないで、電源ボタンを押して、電源を入れてください。	22
	手元スイッチの残量表示ランプが2回、アシストランプが1回の割合で点滅する	●駆動ユニットの異常です。 ⇨ 販売店に修理をご依頼ください。	――
	手元スイッチの残量表示ランプは残量を表示するが、アシストランプが点滅する	●駆動ユニットが過負荷のため、保護モードに入っています。 ⇨ 変速を軽にするなどを行い､軽負荷で走行してください。しばらくすると正常に戻ります。 ※保護モードに入るとアシスト力が制限されます。そのまま走行していただいても問題ありません。表示が戻らない場合は販売店にご相談ください。	――
	補助（アシスト）が切れたり入ったりする	●配線がゆるんでいたり、端子が汚れていませんか？ ⇨ 販売店にご相談ください。	――
	補助（アシスト）しない	●停止して10分以上たっていませんか？(オートオフシステム) ⇨ 電源ボタンを押して、電源を入れ直してください。	22
充電できない	バッテリーの残量表示ランプが点灯しない	●バッテリーが正しく挿入されていますか？ 充電器のバッテリー挿入部がよごれていませんか？ ⇨ よごれを取り除き、バッテリーを正しく挿入してください。	12〜13
		●満充電ではありませんか？ ⇨ バッテリーの残量表示ボタンを押して、チェックしてください。満充電からの再充電はできません。一度使用してから、充電してください。	――
		●残量表示ボタンを押した時、LEDランプが流れるように点滅する場合はバッテリーの故障が考えられます。 ⇨ 販売店にご相談ください。	――

症状		対処方法	ページ
走行距離が短い	手元スイッチの残量表示ランプが短い走行で点滅を始める	●充電ができていますか？ ●長期間使用せずに、放置されていませんでしたか？ ⇨ バッテリーを充電してください。	12〜13
		●初めて使用するバッテリーではないですか？ ⇨ バッテリーを充電してください。	12〜13
		●道路条件や変速位置、苛酷な走行により、走行距離が、短くなります。	21
		●冬期は、バッテリーの特性上容量の低下が大きくなります。	――
		●タイヤの空気圧が低下していませんか？ ⇨ 自転車用ポンプを使って空気を入れてください。	19
		●ブレーキの調整は正しくできていますか？ ⇨ ブレーキの調整をしてください。	17
	バッテリーや充電器が熱くなる（発火の心配）	●充電中、充電器は多少熱くなります。 ⇨ 異常ではありません。	――
		●手で触れられないほど熱い場合は、異常です。 ⇨ ただちに使用を中止し､販売店に修理をご依頼ください。	――
	充電が完了したのに残量表示ランプが5個全部点灯しない	●充電途中で電源プラグを抜きませんでしたか？ ⇨ 再度充電してください。	12〜13
		●充電器の端子が汚れていませんか？ ⇨ 乾いた布等で清掃してください。	――
		●長期間使用されたバッテリーですか？ ⇨ バッテリーの寿命です。販売店にご相談ください。	――
	ペダルに振動を感じる	●ペダルに足を乗せた状態での停車時に振動を感じる場合がありますが、モーター固有の特性ですので、故障ではありません。	――

おぼえのため、記入されると便利です。

販売店名	電　話（　　　）　　　ー
品　番	車体番号
キー番号	防犯登録番号

必要なとき

仕　様

品　名	アルフィットビビSP2	
品　番	BE-EPSS43	BE-EPSS63
寸法　全　長	1,787 mm	1,857 mm
寸法　全　幅	570 mm	
寸法　サドル高	765 mm〜865 mm	
寸法　タ イ ヤ	24×1 3/8　WO	26×1 3/8　WO
寸法　軸間距離	1,124 mm	1,162 mm
総車両質量	22.7 kg	23.2 kg
フレーム	U 型（アルミ製）	
ハンドルバー	中上がり（アルミ製）	
バスケット	標準装備（樹脂製）	
リフレクタ	バスケット下・後どろよけ・前後車輪に取付	
スタンド	両立スタンド	
リヤキャリヤ	標準装備（ステンレス製　クラス25）	
補助速度範囲 変速 3の位置	24 km/h 未満	
充電1回の走行距離（標準モード走行）	32 km	
モーター形式 定格出力	直流ブラシレスモーター　250 W	
補助力制御方式	踏力比例制御	
バッテリー　品番	NKY245B02	
種類	リチウムイオン電池	
容量	26 V ̶ 3 Ah	
質量	約　1.0 kg	
充電器　品番	NKJ033	
形式	スイッチング・レギュレーター式・スタンド型	
電源	AC100 V（50 Hz／60 Hz）	
充電時間	約　2 時間	
質量	約　0.7 kg	
消費電力	約　80 W	
待機消費電力	約　1.5 W	
変速機方式	内装3段シフト（ピアノタッチ）	
駆動方式	インラインドライブ	
制動装置　前輪	サイドプル式キャリパーブレーキ	
後輪	ローラーブレーキ	
照明装置	バッテリー式前照灯	
施錠方式	後輪サークル錠	
乗車適応身長	140 cm以上	142 cm以上

●乗車適応身長は、個人差がありますので、目安としてください。
●寸法や質量等の値は、部品のばらつきや仕様変更により、誤差が生じる場合があります。
●仕様変更などにより写真、イラストや内容が一部実車と異なる場合があります。
●バッテリー寿命は、約300〜400 回の充・放電または、約1 年半〜2 年が目安です。
　このときのバッテリー容量は、初期の約60 %に低下します。（保証回数・期間ではありません。）
●この車種は、乗員体重を65 kgで基本設計しています。
　従って、著しくオーバーした体重の方が常用された場合は、各部の消耗度合、劣化度合が大きくなります。
　走行距離も、『標準モード走行』に対して短くなります。

〜メモ〜